

## 経営理念

オルガノは水で培った先端技術を駆使して  
未来をつくる産業と社会基盤の  
発展に貢献するパートナー企業として  
あり続けます

## サステナビリティ方針

わたしたちオルガノは、ステークホルダーとともに、  
未来に向けて持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します

**E**

水で培った最適化技術<sup>\*</sup>で、  
水環境保全や  
温暖化防止に貢献する  
環境配慮型製品・  
サービスを提供します

**S**

人権および多様な  
価値観・個性を尊重し、  
従業員一人ひとりが成長し  
活躍する職場づくりを  
推進します

**G**

すべての  
ステークホルダーとの  
対話と連携を重視し、  
誠実かつ公正な企業活動を  
遂行します

## 長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を  
基に事業領域と展開地域を拡大し、  
産業と社会の価値創造と課題解決を  
推進する製品・サービスを絶えず提供します

昨日までのやり方を、明日に向けて、  
今日変える人をつくり、  
一人ひとりが働きがいと活力に満ちた  
企業を構築します

<sup>\*</sup>“水で培った最適化技術”には、水処理に関わる分離精製、分析技術やエンジニアリングにおける技術の追求と、その組み合わせによって社会のニーズに合致した最適なシステムやサービスを提供するという意味が込められています。

# トップメッセージ



## 人的資本の強化と 業務改革による 生産性の向上に注力し 新たなステージを目指します。

オルガノ株式会社  
代表取締役社長  
社長執行役員

山田正幸

### ❖ 今年のグループレポートでお伝えしたいこと

オルガノグループは、水や環境に関わるさまざまな課題に取り組み、先端技術を活かして産業と社会基盤の発展に貢献してまいりました。当社グループの業績は安定的に向上し続けており、収益を増加させています。今後も電子産業分野を中心に良好な需要動向を想定していますが、業績が好調な今こそさらなる成長を目指し、10年、20年先を見据えた準備を整えておかねばなりません。当社グループは、新たなステージに移行するために変わっていくべき大切な時期にきていると考えています。業務の効率化、人的資本の強化、ITインフラの強化、働きやすい職場環境の整備、新たなソリューション事業の創出、新たな展開地域での事業推進など、中期経営計画(2024~2026年度)では当社グループが成長していくために必要な投資および施策を積極的に実施してまいります。また、取り組みを強化しつつあるサステナビリティ活動は、水に関わる当社グループの事業と親和性の高い

活動であり、お客様や社会にグループとしてどのような貢献や価値の提供ができるのかという観点で、引き続き積極的に活動を進めてまいります。さらに、複雑化する世界情勢は、地政学的リスクやサプライチェーンの混乱など事業環境にさまざまな影響を与えていくことが想定されます。リスクに備えると同時に、必要なリスクテイクをしながら、当社グループが社会に貢献する企業としてさらに成長していくために、グループ一丸となって課題に取り組み、事業機会に挑戦してまいります。

本報告書では、当社グループが長期的に目指す姿や、どのように価値を生み出すかについて情報を拡充しました。サステナビリティについては、人的資本に関する戦略、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に基づく情報を充実させています。本レポートを通じてステークホルダーの皆様の当社グループへのご理解が深まれば幸いです。

### ❖ 2023年度の振り返り、中期経営計画(2024~2026年度)に向けて

2023年度の業績は、受注高は前期比16.7%減少の1,444億円となったものの、国内外における半導体製造向け水処理設備の好調な需要環境が継続したことが主要因となって、売上高は1,503億円、営業利益は225億円と過去最高の収益となりました。当社グループは長期経営計画ORGANO 2030に基づいて、毎年3か年の中期経営計画をローリングして策定しており、中期経営計画(2024~2026年度)では2026年度に売上高1,750億円、営業利益260億円の達成を目標としています。世界の半導体市場は、2030年までに1兆米ドルに達すると予測され、経済安全保障の観点からも半導体の製造地域はグローバルに拡大することが見込まれています。

当社グループは中期経営計画目標達成とその先のさらなる成長に向けて、水処理プラント納入能力の向上と事業ポートフォリオ強化の取り組みを進めています。水処理プラント納入能力の向上については、要員強化とエンジ

ニアリング業務の効率化による生産性の向上を図っていきます。事業ポートフォリオの強化については、新たなソリューション事業創出の取り組みとグローバル展開の強化を進めます。

要員強化においては、新卒や経験者の採用強化に加えて、海外人材の積極的な登用も必要です。すでにベトナムではグローバルエンジニアリングセンターを立ち上げて人員を育成しながら強化しています。また、パートナー企業との協力関係もより深めていきます。エンジニアリング業務の効率化においては、ITインフラの整備によるデータ活用の推進に加え、業務体制の効率化が大きなウエイトを占めます。その施策の一つとして「技術伝承AI」を提供する株式会社LIGHT2との戦略的な資本業務提携を2024年6月に開始しました。この業務提携を通じてエンジニアリング業務体制の変革と、優れたプラントエンジニアリング技術の継承を進めてまいります。

## — トップメッセージ



新たなソリューション事業の創出については、現在の事業展開から市場、技術において枝葉を伸ばして事業の幅を広げていくことが必要と考えています。現状に甘んじて事業ポートフォリオの強化を怠れば企業の成長は止まってしまうと認識しています。熱を使用しない有機溶媒の精製など、当社グループが長年培ってきた技術を活かし、環境にも貢献できるような新たな製品・サービスを開発していきたいと考えています。また、当社グループの大きな強みの一つとして、広い顧客基盤があります。電子産業分野をはじめとして電力・上下水などのインフラ分野、医薬・化学・食品などの一般産業分野、研究機関やコンビニなどさまざまな産業分野のお客様に新たな価値を提供する

### ❖ 長期経営計画 ORGANO 2030実現に向けて

変化が激しく未来予測が困難な時代には、グループ全体で考え方と目指す方向を共有することが重要です。私たちは2020年に「経営理念」を振り返り、2030年の当社グループの「ありたい姿」を定めた長期経営計画ORGANO 2030を策定いたしました。ORGANO 2030では2030年度までに売上高2,000億円以上、売上高営業利益率15%以上、自己資本当期純利益率(ROE)12%以上を安定的に計上できる収益構造の構築を目標として掲げ、そこからバックキャストして中期経営計画をローリングしながら毎年定めております。2023年度の実績は営業利益率15%、ROE18%と目標を達成いたしました。さらにエンジニアリングの業務効率の改善等、計画している施策を着実に実行することで売上高2,000億円も達成可能な数字になると考えています。今後は2030年のさらに先を見据えて、リスクを想定し、備えると同時に、必要なリスクテイクをしながら、さらなる投資

### ❖ 人材戦略について

当社グループの国内事業、海外事業のさらなる展開を図るためにも、多様な人材の採用、育成体制の強化が

ことで、さらなる成長を図っていきたくと考えています。その一端として、排水の再利用や、有価物の回収など水処理技術を活かしたサービス、データ活用による遠隔監視システムなど省力化につながるソリューションサービスの開発に取り組んでいます。

グローバル展開の強化については、当社グループの海外売上高の約7割を占めている中国と台湾に加えて、近年、電子産業分野で活発な投資が行われているマレーシアにおいても積極的な展開を図っています。また、中期経営計画(2024~2026年度)では、2021年に進出した米国における事業体制の確立と、同国での事業ポートフォリオ構築の準備を進めてまいります。

および施策を積極的に実施し、より強い企業となることを目指してまいります。

ORGANO 2030では、さらなる長期的な成長に向けて、M&Aなどのインオーガニックな事業拡大策も取り入れながら既存事業の強化、新たな分野への展開を図っていきます。新しい事業の種の探索については、若手社員を中心にいくつかのプロジェクトが進行中です。新しいことに取り組む意欲を後押しし、応援していきたいと考えています。

海外の事業展開では、米国での安定的な事業体制の確立、事業ポートフォリオの構築を最優先事項と位置付けています。また中国、台湾、東南アジア地域についても、米中摩擦等の地政学的リスクも考慮しながら、当社のプレゼンスを強化していきます。さらにインドや欧州など、新たな展開地域での海外事業の推進による地理的なポートフォリオのさらなる強化も検討してまいります。

非常に重要だと考えています。人材の多様性については、女性管理職比率の向上、海外事業における現地人材の

より積極的な登用に取り組んでいきます。育成体制の強化では、人材教育投資の強化、エンジニアリング業務に関する最新の研修設備の導入を計画しています。また、従来から力を入れてきた働きやすい職場環境の整備や従業員のモチベーション、エンゲージメントの向上施策に引き続き取り組んでいきます。

当社グループでは社員間の対話を大事にしており、自由闊達に意見を言い合える社風が大切であると考えています。私自身も昨年、50人前後のマネージャー職と10回に分けてフリーディスカッションを実施し、会社の将来や

### ❖ サステナビリティ経営の実践

当社グループの展開する事業そのものが社会のサステナビリティ実現に深く関わりを持っています。当社グループのサステナビリティに対する取り組みの基本にあるのは、当社グループが有する高度な技術を通じて、水質改善などを中心とした環境保全や温暖化防止に貢献していくことです。なかでも、当社グループの超純水製造技術であるイオン交換樹脂での精製法は、蒸留法を利用した加熱タイプと異なり、CO<sub>2</sub>削減へ大幅な貢献ができます。これらの水の浄化や再利用、排水からの有価物回収といった環境配慮型の製品・サービスを中心に研究開発に注力しています。

環境面ではTCFD対応として、Scope1、2およびScope3の削減に取り組んでいます。当社グループは大型設備の

### ❖ ステークホルダーの皆様へ

当社グループは好調な業績が続いていますが、この状況に甘んじることなく、2030年、2040年、さらにその先へ向けてさらに大きく飛躍できるように、事業基盤である人的資本の強化や業務効率化への投資を行うとともに、事業成長の方向性を確認し、人的資本や研究開発、デジタルなどの成長投資や新しい事業への挑戦、持続的な成長に向けてオーガニック/インオーガニックな成長戦略の策定などを積極的に行ってまいります。

現在の状況について意見交換を行いました。各人から責任者としての想いや熱意を受け取り刺激になりました。ここ数年は業績が良くなってきたこともあり、社員が以前より自信を付けてきたと感じます。先のディスカッションでは次に向かって新しいことができるという熱い想いを感じる一方で、多忙な状況下で新たな挑戦をすることには大変さを感じるとの指摘もありました。新中期経営計画(2024~2026年度)では要員強化、育成強化を図っていくとともに、全社一丸となって業務の効率化、生産性の向上に取り組んでいきます。

納入もあるため、Scope3の排出量の可視化と削減はハードルが高いこともあり、どのような指標で管理していくかが今後の課題です。

リスク管理の面では、リスクマネジメント委員会を設置してグループのリスクをリストアップし、4象限マトリクスを用いてオペレーショナルリスク、投資リスク、エマージングリスク、事業戦略遂行リスクに分類し、各項目での影響度と顕在化可能性/不確実性を評価した上で対策を進めています。また、大地震など大規模災害時における被害の最小化と事業継続を図るため事業継続計画(BCP)を策定するとともに、緊急事態への備えや教育・訓練の実施によりBCPの実効性の向上に取り組んでいます。

また、社会のサステナビリティ実現に向け、課題解決型のソリューションの提供などの取り組みも積極的に行ってまいります。

これからも当社グループは一丸となって、ステークホルダーの皆様から期待される企業になるべく努力してまいります。引き続きオルガノグループへのご理解と温かいご支援をお願いいたします。

# 長期経営計画 ORGANO 2030

経営理念、長期経営ビジョンをどう実現するか、また未来の社会環境において当社グループがどうありたいかを議論してまいりました。この議論に基づき2020年度に策定した長期経営計画ORGANO 2030を中期経営計画や単年度の計画に落とし込み、具体的なアクションを進めています。



**2027年**  
新たなビジネス・  
展開地域の拡大

- 米国での事業拡大
- 薬品など機能商品の海外展開拡大
- 新たなソリューションサービスの  
拡充・展開

2026年

2028年

2025年

2029年

**2030年**  
グローバルでの  
パートナー企業へ

**2024年**  
業務の効率化と  
新たなビジネス創出

- エンジニアリング業務の効率化・  
キャパシティ拡大
- 新たな水処理・分離精製技術・  
ソリューションサービスなどの  
開発強化
- 各国・地域での事業体制拡充

- 先端半導体分野  
トップ企業のパートナーへ
- 差別化された特定分野  
水処理薬品／機能材料の  
ファーストチョイス企業へ
- サステナビリティ目標の達成

○ 2030年度 業績イメージ  
売上高 2,000億円  
営業利益 300億円  
営業利益率 15%  
ROE 安定的に12%以上

○ サステナビリティ目標 (2030年度)

Water	当社が納入する装置が浄化処理し、外部に放流される排水量	累計 6,000万㎡
	当社が納入する装置が浄化処理し、回収されリサイクルされる水量	累計 25,000万㎡
CO <sub>2</sub>	Scope1・2 CO <sub>2</sub> 排出量削減率 (Scope3削減目標はP66参照)	42% 削減
	当社の技術・製品の適用によるCO <sub>2</sub> 削減量	累計 32,000 t-CO <sub>2</sub>
Sludge	当社の技術・製品の適用による汚泥削減量 <small>*汚泥:排水処理の過程で発生する廃棄物</small>	累計 10,000 t